

言葉の旅 スペイン語のバリエーション(12)

フィリピン

現在観光地としても有名なフィリピン(Filipinas)第二の都市セブ島セブ市(Cebu)の対岸にマクタン(Mactan)という小さな島があります。コロンブス(Cristobal Colón)がアメリカ大陸に到着してからおよそ30年後の1521年にマゼラン(Magallanes)はこの島でラブラプ王(Lapu Lapu)と戦い大敗を喫し、彼自身も戦死しました。わずかな生存者の一人ピガフェッタ(Antonio Pigafetta)がその戦闘の様子を伝えています。原文はイタリア語ですがスペイン語の抄訳(Antonio Pigafetta. *Primer viaje en torno del globo*, trad. Carlos Amoretti. Colección Austral. 1941)から引用します。



【写真1】マニラ・リサール公園のラブラプ王の像

Como conocían a nuestro capitán, contra él principalmente dirigían los ataques, y por dos veces le derribaron el casco; sin embargo, se mantuvo firme mientras combatíamos rodeándolo. Duró el desigual combate casi una hora. En fin, un isleño logró poner la punta de la lanza en la frente del capitán, quien, furioso, le atravesó con la suya, dejándosela clavada. Quiso sacar la espada pero no pudo, por estar gravemente herido en el brazo derecho; diéronse cuenta los indios, y uno de ellos, asestándole un sablazo en la pierna izquierda, le hizo caer de cara, arrojándose entonces contra él. Así murió nuestro guía, nuestra luz y nuestro sostén.

敵は提督を知っていたので攻撃を集中し、その兜(かぶと)を二度はねとばした。しかし提督はわれわれが困んで戦う間、しっかりと踏みこたえていた。比類なき闘いが一時間ほど続いたが、ついにひとりの島の者が提督の顔面に竹槍を刺した。提督は猛然と自分の槍でその相

手を突き刺した。提督は剣を抜こうとしたが右手に深手を負っていたため抜くことができなかった。土地の者たちはこれを見て、一人が提督の左脚に切りつけ、提督をうつぶせに倒し、飛びかかった。こうして、われらの指導者、われらの光明、われらの援護者の息が絶えたのである。

スペイン領メキシコから出発したレガスピ(Legaspi)の遠征隊が再びセブ島に到着したのはさらに 44 年後(1565 年)でした。この年から 1898 年まで 333 年間のスペインのフィリピン支配が続きます。

私たち(琉球大学の金城宏幸さんと上智大学のアントニオ・ルイズさんと私)は 2000 年の春、独立しておよそ 100 年後の現在のフィリピンのスペイン語を調べに、北のルソン島(Luzón)と南のミンダナオ島(Mindanao)を訪れました。首都マニラ(Manila)の交通ラッシュと喧騒を逃れ、マニラ湾に臨むリサール公園を抜け、さらに奥のイントラムロス(Intramuros = 「城壁の中」)地区にまで入ると、かつてのスペイン統治時代にタイムスリップしたような感覚に陥ります。この地区の教会、街路、要塞などを見物しながら、馬車(calesa)の音を聞くと当時の生活の様子が思い浮かびます。しかし、道行く人々の会話はタガログ語や英語ばかりでスペイン語の響きは聞こえてきません。まるで 100 年前の昔に封じ込まれてしまったかのようです。

1991 年の資料によればスペイン語を母語とする人は国民のわずか 3%に過ぎません¹。合衆国から独立した 1946 年、政府は英語、スペイン語、タガログ語(tagalo)を公用語と定めましたが、1987 年の新憲法で公用語としてのスペイン語は廃止されました。

それでも私たちはわずかに残るスペイン語を求めてマニラのスペイン語話者に話を聞きに行きました。どの人も異口同音にフィリピンのスペイン語の行く末を案じている様子でした。フィリピン大学のスペイン語教授テレシタ・アルカンタラさんもその一人です。彼女のフィリピン語(Filipino:タガログ語を基礎にしたフィリピンの国語)語彙の研究によれば、その大半はタガロ

¹ Antonio Quilis y Cecilia Casado-Fresnillo. "La lengua española en Filipinas. Estado actual y directrices para su estudio", *Anuario de Lingüística Hispánica*, 8, 1992.

グ語起源ですが、その次(3分の1)はスペイン語だそうです²。このような形でスペイン語はフィリピンの国語に大きな痕跡を残していることがわかりました。

クレオール語

南の島ミンダナオ島ではまったく異なるスペイン語の姿に出会いました。ここではスペイン語にとってもよく似た言葉が話されているのです。レストランでスペイン語で注文すると、ウェイトレスがとてもうれしそうな顔をしました。土地の言葉と似ているので喜ばれたのだと思います。



【写真2】Zamboanga, Pilar 砦内のごみ箱

市史によると、イスラム教徒の反乱に備えるため島の西部のサンボアンガ(Zamboanga)でピラール砦

(Fort Pilar)の建設が始まったのは1635年のことです。その建設現場にはルソン島やビサヤ諸島(Bisaya)から大勢の人夫が集められましたが、彼らはそれぞれ出身地の言語しか知りませんでした。このような言語状況があると人々は必要に迫られて片言でも支配者の言語(スペイン語)を自然に操るようになります。ラテンアメリカの各地ではやがてスペイン語が国民の言語となったのですが、ここでは実にスペイン語と現地の言語の出会いからチャバカノ語(chabacano)という**新しい言語**が生まれたのです。このような相互理解の手段が世代を超えて定着したものを**クレオール言語**(lengua criolla)といいます。現在では30万人近くの人々が話し、この言語で放送するラジオ・テレビ局もあります。

写真は現在歴史博物館になっているピラール砦にあったごみ箱の表示です。**Aqui buta el basura**「ここにごみを捨ててください」(buta = botar「捨てる」)

² Teresita Alcántara. *Los hispanismos en los medios de comunicación social filipinos*. Sentro ng Wikang Filipino. Unibersidad ng Pilipinas, 1998.

と書いてあります。basura (ごみ) の前の定冠詞が el になっていることに気づきます。このように文法が単純化されるのは世界各地にあるクレオール諸語の一般的な傾向です。

スペイン出身の神父マクス・ロドリゲスさんから *Our Lady of Pilar: Heritage of Zamboanga* (Fr. Max. Rodríguez, Claretian Publications, Quezon City, 1995) というすばらしい本をいただきました。この本には 1734 年にピラール砦におきた奇跡がチャバカノ語で語られています。ある晩のこと砦の歩哨がうたたねをしていました。すると、白衣の美しい女性が現れ彼の肩をたたいて言いました。"Despierta, hay moros en la costa" 「目を覚ましなさい。海岸にモロの兵がいます」。そして、...

チャバカノ語

Ele ya grita: "Alto, alto".
Como no hay contestación,
ya apunta le su pufil con el mujer
y cuando para tira ya le,
ya oi con este ta conversa con ele:

スペイン語

Él gritó: "¡Alto, alto!"
Como no hay contestación,
le apuntó su fusil a la mujer
y cuando iba a tirar
la oyó hablar:

兵士は「止まれ、動くな」と叫びました。返事がないので女性に銃を向け引き金を引こうとすると、彼女は兵士にこう語りかけました。"Centinel, por que el paso niegas el alba del día? Si conoces a María, porque le gritas el alto?" 「歩哨の兵よ、夜明けの陽が見えませんか。マリアを知る者ならばなぜ止まれなどと言うのですか」 Enseguidas el guardia ya hinca y ya habla. すぐに番兵は膝まづいてこのように言いました。"Perdona me, Señora mía. Madre de mi corazón. Soy un pobre centinel, que cumple mi obligación." 「お許してください、心の聖母よ。私はあわれな歩哨で義務を果たしているだけでございます」



【写真3】ピラール砦の中

この奇跡譚の続きは、兵士から報告を受けた上官が真偽を確かめようと彼の指を焼いたが、やけどを負うことはなかったということです。

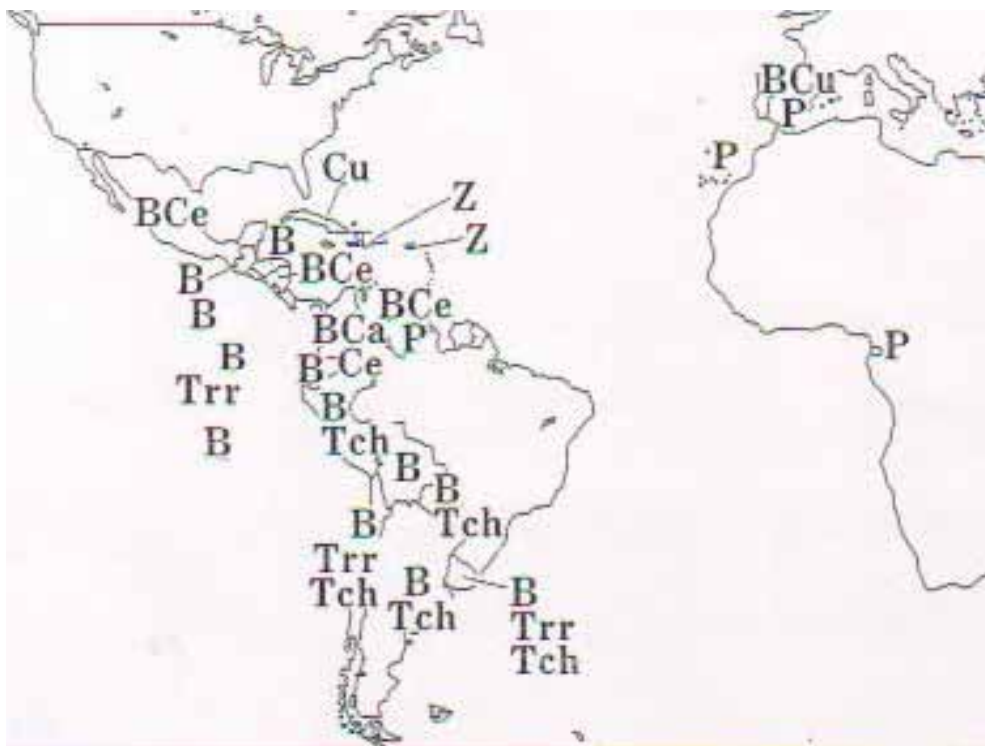
語学的话题に戻りますと、上のテキストにあるようにチャバカノ語では過去(完了)が *ya* で示されます。また、*con* はスペイン語の *a* のように直接目的語を示す働きをします。このように文法はスペイン語とかなり異なりますが、単語の多くは共通です。

私たちがロドリゲス神父とスペイン語で話している間、同行していたチャバカノ語を話す大学生がじっと耳をすませていました。教会からの帰り道、彼に聞くと大体意味がわかったということです。はるばる大西洋と太平洋を渡ってフィリピンまでやってきたスペイン語とこの土地で産声をあげたチャバカノ語が3世紀の言語史を超えて、今ここでめぐり合ったのです。

言葉の広がり...「ごみ箱」

写真のような「ごみ箱」は、スペイン語圏各地で呼び名が異なります。多くは *basura* から派生した *basurero* (地図では **B**) が使われますが、スペイン、赤道ギニア、ベネズエラでは *papelera* (**P**) もあります。他に、コロンビアでは *caneca* (de *basura*, **Ca**)、メキシコ、ニカラグア、ベネズエラでは *cesto* (de *basura*, **Ce**)、スペインとキューバでは *cubo* (de *basura*, **Cu**)、ペルー、チリ、パラグア

イ ,ウルグアイ ,アルゼンチンでは **tacho** (de basura, **Tch**) , コスタリカ ,チリ ,
ウルグアイでは **tarro** (de basura, **Trr**)のように容器を示す名詞が多く使われ
ます。珍しいケースとして英語からの借用語 **zafacón** (**Z**, <safety can)がドミニ
カ共和国とプエルトリコで見つかりました。



【地図】「ごみ箱」

これで私たちの「言葉の旅」は終着点にたどりつきました。スペイン語は
ヨーロッパのイベリア半島だけでなく、対峙するアフリカ、大西洋を超えた
南北両大陸、そしてはるばるフィリピンにまで達しました。まだ訪れたこと
のないモロッコ、トルコ、イスラエル、アメリカ合衆国の各地で話されるユ
ダヤスペイン語 (judeoespañol: 1492年にスペインを追放されたユダヤ人た
ちが5世紀の間保ってきたスペイン語) やアフリカの赤道ギニアのスペイン語
の様子もいつか知りたいと思いますが、それは別の機会にゆずりましょう。
読者の方々に、そしてこれまでに直接またメールで感想をお寄せいただいた
方々に感謝いたします。

【課題-12a】フィリピンの歴史を調べ、スペイン語が使用されなくなった理由を政治・社会・文化的な面から考察しなさい。

* 参考。鈴木静夫著『物語フィリピンの歴史』中公新書

【課題-12b】さまざまなピジンとクレオールについて、その特徴を調べなさい。それとサンボアングのチャバカノ語を比較しなさい。スペイン語の他のクレオール諸語についても調べなさい。

* 参考

Chaudenson, Robert, *Les Créoles*, 1995, Collection *Que Sais-je?*, 糟谷啓介・田中克彦訳『クレオール語』白水社, 2000.

田中克彦訳『クレオール語と日本語』岩波書店, 1999.

Todd, Loreto. 1974. *Pidgins and Creoles*. 田中幸子訳『ピジン・クレオール入門』大修館書店, 1986.

Lapesa (1981, 邦訳2004)17章「アメリカ・スペイン語」の128「アフリカ黒人系の要素, クレオール諸語, アフリカ黒人語系語, パピアメント」

【課題-12c】「ごみ箱」を意味するスペイン語の語形の地域的語彙パリエーションについて調べなさい。

* 参考: Varilex: <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/varilex/>